

令和6年度 教科名等		国語		科								
科目名		対象学年	対象クラス			単位数	分類	予定時数				
言語文化		1	A	B	C	D	E	F	2	必修履	70	時間
教科担当・教材等												
授業担当者名												
教科書		精選 言語文化(第一学習社)										
使用教材等		『改訂3版 完全マスター古典文法』(第一学習社)、『三訂版わかる・読める・解けるKey&Point古文単語330』(いりずな書店)、『新国語総合ガイド六訂版』(啓隆社)、『必携新明説漢文』(尚文出版)、『ルート古典1』(啓隆社)、『古典文法完全マスターノート助動詞編』(第一学習社)、『新明説漢文基本練習ノート』(尚文出版)										
科目の目標												
学習目標		【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。										

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	A 単元名 児のそら寝(宇治拾遺物語) 【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【感】進んで説話のおもしろさを感じ、歴史的仮名遣いの読み方や古語と現代語の違いを理解し、学習課題に沿って、内容や展開などについて叙述を基に的確に捉え、僧たちが児を笑った理由を話し合う。	A 児のそら寝(宇治拾遺物語) 歴史的仮名遣い 古語と現代語 五十音図 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	A 単元名 児のそら寝(宇治拾遺物語) 【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【感】進んで説話のおもしろさを感じ、歴史的仮名遣いの読み方や古語と現代語の違いを理解し、学習課題に沿って、内容や展開などについて叙述を基に的確に捉え、僧たちが児を笑った理由を話し合うとしている。
	B 単元名 絵仏師良秀(宇治拾遺物語) 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解する。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【感】進んで説話のおもしろさを感じ、歴史的仮名遣いの読み方や文語のきまりについて理解し、古文に親しみ、学習課題に沿って、叙述を基に、絵を描くことについての絵仏師良秀の考え方について話し合う。	B 絵仏師良秀(宇治拾遺物語) 文・文節・単語 品詞 古文の特徴 古語辞典の引き方 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	B 単元名 絵仏師良秀(宇治拾遺物語) 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【感】進んで説話のおもしろさを感じ、歴史的仮名遣いの読み方や文語のきまりについて理解し、古文に親しみ、学習課題に沿って、叙述を基に、絵を描くことについての絵仏師良秀の考え方について話し合うとしている。
	C 単元名 訓読の世界 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや、古典特有の表現などについて理解する。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【感】進んで漢文の世界に親しみ、訓読のきまりや熟語の構造を理解し、学習の見通しをもって、漢和辞典の使い方と活用について話し合う。	C 訓読の世界 訓読のきまりや熟語の構造について ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	C 単元名 訓読の世界 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【感】進んで漢文の世界に親しみ、訓読のきまりや熟語の構造を理解し、学習の見通しをもって、漢和辞典の使い方を理解し、熟語の意味「創作ゲーム」を行おうとしている。
2	D 単元名 芥川(伊勢物語) 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解する。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【感】進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、副詞の呼応などについて理解し、学習課題に沿って、第三段落があることの構成上の効果について考える。	D 芥川(伊勢物語) ・助動詞「なむ」や副詞の呼応などについて ・第三段落があることの構成上の効果について	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【感】進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、副詞の呼応などについて理解し、学習課題に沿って、第三段落があることの構成上の効果について考えようとしている。
	E 単元名 羅生門 【知】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【感】進んで内容や展開を的確に捉えることを学び、作品の特色をつかもうとし、学習課題に沿って、舞台設定・構成・描写に対する理解を深めようとしている。	E 羅生門 ・近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉える方法を知る ・異なる作風の小説を比較して、それぞれの作品の特色をつかませる ・末尾の一文から想像される下人のその後の姿を、文章にまとめることを通して、舞台設定・構成・描写に対する理解を深められるよう指導する ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	E 単元名 羅生門 【知】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【感】進んで内容や展開を的確に捉えることを学び、作品の特色をつかもうとし、学習課題に沿って、舞台設定・構成・描写に対する理解を深めようとしている。
3	F 単元名 門出 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解する。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【感】進んで日記文学の特徴や成立の背景を理解し、諸説などの表現の工夫を味わい、学習課題に沿って女性に仮託した作者が日記でどのようなことを書こうとしたのか「男の文章と女の文章」を参考にして話し合う。	F 門出 ・日記文学の特徴や成立の背景について ・諸説などの表現の工夫について ・女性に仮託した作者が日記でどのようなことを書こうとしたのか「男の文章と女の文章」を参考にして話し合うよう指導する ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	F 単元名 門出 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【感】進んで日記文学の特徴や成立の背景を理解し、諸説などの表現の工夫を味わい、学習課題に沿って女性に仮託した作者が日記でどのようなことを書こうとしたのか「男の文章と女の文章」を参考にして話し合うとしている。
	G 単元名 先従随始 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや、古典特有の表現などについて理解する。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【感】進んで漢文の簡潔で整然とした表現と構成に注意しながら読み味わい、描かれた状況や心情を考えながら、「雑説」を読み味わい、学習課題に沿って、筆者の主張について話し合う。	G 先従随始 ・漢文の簡潔で整然とした表現と構成について ・描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩文を読み味わうよう指導する ・筆者の主張について ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	G 単元名 先従随始 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【感】進んで漢文の簡潔で整然とした表現と構成に注意しながら読み味わい、描かれた状況や心情を考えながら、「雑説」を読み味わい、学習課題に沿って、筆者の主張について話し合うとしている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。